WAM助成
独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

就労困難な若者のトレーニングカフェ

SPROUTの実践

2019年3月

特定非営利活動法人市民社会研究所

はじめに

さまざまな理由で働きたいのに働けないでいる若者が、一歩前に踏み出すためのトレーニングを行うカフェを作りたいと考えたのは2016年のことです。若者就労支援には2010年度から取り組んできましたが、私たちが行っているさまざまな支援のしくみのうち、欠けている部分を埋める最後のピースとして、2017年に立ち上げることができました。

障害者支援事業としてのカフェは例がありますが、障害に限定しない場合は国からの助成金もないため、ほとんど例がありません。しかも、トレーニングカフェといえども、お客様の売り上げによって成り立つ「社会的企業」なので、経営のことも考えなければなりません。

私たちが取り組んできたカフェづくりの経験、トレーニングの成果、社会的企業としての課題などを、多くの方々と共有し、私たちが目指す「ユニバーサル就労」の社会づくりへの一助としたいと思います。

2019年3月

特定非営利活動法人　市民社会研究所

代表理事　松井真理子

目　　次

1　トレーニングカフェの目的

（１）市民社会研究所とは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

（２）発案の経緯～なぜカフェなのか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

2　カフェを立ち上げる

（１）立地と施設をどうするか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

（２）資金をどうするか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

（３）店の設計をどうするか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

（４）店の名前をどうするか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

（５）メニューをどうするか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

（６）オープニング・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

3　若者のトレーニング

（１）推進体制・・・ 15

（２）トレーニングの内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

（３）地域の人々との交流・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

（４）トレーニング生の成長・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

（５）トレーニング生の状況と進路・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

4　地域とのつながりと発信

（１）「働く」を学ぶ会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

（２）様々なつながり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27

（3）成果の発信・・ 30

5　採算性と持続性

（１）社会的企業のジレンマ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31

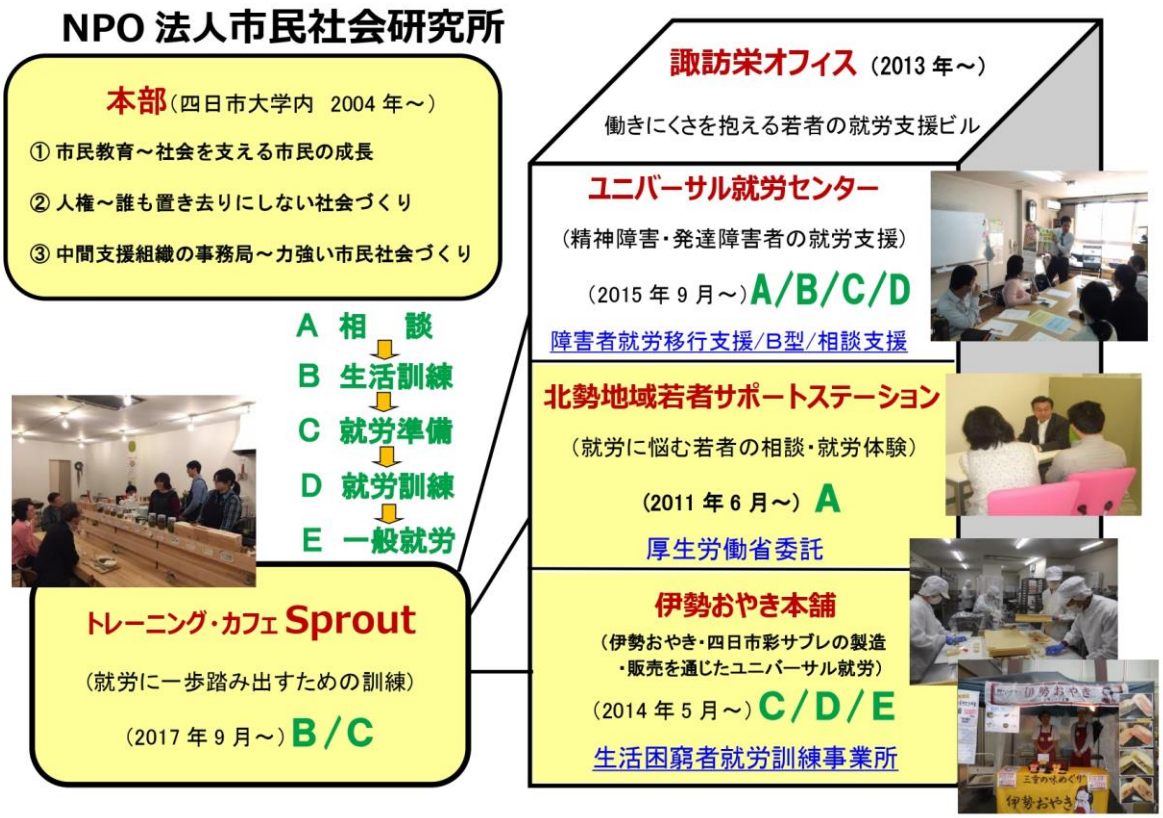
（２）これからの方向性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32

1　トレーニングカフェの目的

（１）市民社会研究所とは

市民社会研究所は、①よりよい社会づくりを担う市民の成長、②誰も置き去りにしない社会づくり、③市民活動団体の連携による中間支援組織づくりの３本柱をミッションとして、2004年に設立されました。（下図参照）

2010年度からは、働きにくさを抱える若者の就労支援の取り組みをスタートしました。若者にとって「働くこと」＝「生きること」です。全ての若者がその人らしく働けることは「人権」の問題であり、社会全体で支えるべきだと考えたからです。



市民社会研究所の若者就労支援のあゆみ

ほくサポのマスコット「タスケ」

2010年度　若者自立支援体制確立事業（三重県）

北勢地域の若年無業者の実態調査を行いました。

2011年度　地域若者サポートステーション委託事業受託開始（厚労省）

＊北勢地域若者サポートステーション（ほくサポ）

若者自立支援体制確立事業受託（三重県）

若年者就業支援事業受託（四日市市）

この年からサポステ事業を受託し、今日まで毎年受託しています。併せて三重県、四日市市からも若者の就労支援の支援をしていただいています。

2014年度　「伊勢おやき本舗」設立～ユニバーサル就労／中間的就労の社会的企業

就労支援の実践的な場となる社会的企業を初めて立ち上げました。三重県知事認定の「生活困窮者就労訓練事業所」に選定されました。

伊勢おやき本舗」のマスコット「うずめちゃん」

生活困窮者の就労に向けた訓練先開拓事業受託（三重県）

伊勢おやき本舗の立ち上げに伴い、スタートしたばかりの生活困窮者自立支援法に基づく「就労訓練事業所」を開拓する事業を受託しました。

大型商店街丸ごとインターンシップ事業

商店街に立地するサポステの特徴を生かし、商店街と連携した若者のインターンシップ事業を申請し、全国のサポステの中から４件のモデル事業の一つに選ばれました。この事業により商店街との連携が深まりました。

北星高校就労支援事業（北星高校）

北星高校とサポステが連携し、在学中の高校生の支援を始めました。

2015年度　NPO法人ユニバーサル就労センター（ユニバ）設立

主として精神障害・発達障害を抱える若者を対象に、障害者総合支援法に基づく「就労移行支援事業所」及び「就労継続支援事業所B型」を設立

ユニバのマスコット「ゆにばくん」

2016年度　就労困難者の就労訓練受入れ事業所拡大事業（WAM助成）

発達障害、うつなど就労が困難な人に対して、その人のステージに合った就労訓練を行うことができる事業所を拡大させるための、事業者に対する連続講座や、受入れマニュアルの作成を行いました。

2017年度　就労困難な若者のトレーニングカフェ事業（WAM助成）

すぐには一般企業等で働くことが困難な若者（分野横断的）に対する、一般企業での就労訓練の前段階の「トレーニングカフェ」による就労訓練

2018年度　同上（２年目）

トレーニングカフェ「スプラウト」のマーク

1　トレーニングカフェの目的
（２）発案の経緯～なぜカフェなのか

就労支援事業に取り組む中で、働きたいのに働けずにいる若者がたくさんいることがわかってきました。それに対して不足しているのは次の３つだと考えました。

【不足】①彼らが一歩を踏み出すための<u>ゆるやかな訓練の場</u>
②働きにくさを抱える若者についての<u>社会の理解</u>
③彼らの特性に合った就労の場

そこで考えたのが
<u>まちなかの</u>トレーニング・カフェです

身だしなみから
「あいさつ」「声出し」「接客」まで
段階的な就労準備ができます

開放された場所なので
地域の方々が若者と接しやすく
彼らへの理解が深まります。

市民社会研究所の「社会的企業(コミュニティビジネス)」の取組み

トレーニングカフェは「社会的企業」です。カフェを取り組むにあたって、これまでの社会的企業の取組みの蓄積が背景にありました。

【社会的企業の研究（2008年度～）】

2008年度から、市民社会研究所の専門研究員である、立教大学の藤井・原田両先生と共に、イギリス、韓国の社会的企業の文献調査、現地調査を開始しました。

【社会的企業の人材育成（2011年度～2013年度）】

イギリス・韓国の調査を背景に、三重県の委託事業を活用し、社会的企業を担う人材育成を行いました。この時訪問した韓国の「敷居のない食堂（右下）」は、カフェの原型です。

【「伊勢おやき本舗」の設立（2014年度～）】

2013年度の三重県の助成事業を経て、2014年5月に、初めての社会的企業「伊勢おやき本舗」を立ち上げました。2015年度に立ち上がったユニバーサル就労センターとの連携により、社会的企業の基盤が固まり、2018年度は新商品「四日市彩サブレ」の開発も行いました。

２　カフェを立ち上げる
（１）立地と施設をどうするか

トレーニングカフェを作りたいという気持ちはあったものの、決断した直接のきっかけは、伊勢おやき本舗や北勢地域若者サポートステーション（ほくサポ）などが入っているビル（星座ビル）の真向かいの店が、2015年末に空き店舗になったことです。星座ビル自体が商店街の中にあり、カフェも人々の目に触れやすいまちなかに作りたいと考えていたこと、伊勢おやき本舗やほくサポとの連携が重要であるため、できるだけ近い所と考えていたことから、これ以上ないほど絶好の場所でした。
早速大家さんに連絡し、ぜひ貸してほしいと交渉しました。社会的な目的に賛同していただき、快く貸していただけることが決まりました。

中心市街地にあるメリットはほかにもあります。就労に課題のある若者は、車を持たなかったり運転しない場合が多いですが、駅に近いので公共交通機関での通勤が楽にできます。また四日市駅前の商店街は広いアーケード街になっているので、雨の日も、駅からほとんど濡れずに来ることができます。また、商店街はさまざまな店やイベントがあり、若者はお店で飲食やショッピングを楽しんだり、商店街のイベントに参加したりすることもできます。

特に2018年度から、四日市港に大型クルーズ船が停泊するようになり、乗船客の方々が中心市街地まで観光に来られるチャンスが増えました。これに伴って、商店街のウォーキングツアーも行われるようになり、トレーニングカフェ「スプラウト」はそのコース上にあります。ツアーの際は、観光客の休憩所としても使われ、ガイドの方にここが若者のトレーニングカフェであることなども説明していただいています。外国人の観光客が、地域の方々やトレーニング生と交流する風景も見られるようになりました。

中心市街地にあるスプラウト
（赤線は観光客向けウォーキングツアーコース）

2　カフェを立ち上げる
（２）資金をどうするか

カフェを立ち上げる時、問題になるのは資金です。一般の営利目的のカフェの場合は、融資等が考えられますが、トレーニングカフェの場合、融資を受けても返済できる収入がなかなか見込めません。しかし逆に、福祉的な目的の社会的企業だからこそ、得られる資金があります。

【助成金】

今回私たちは、独立行政法人福祉医療機構のWAM助成（社会福祉振興助成事業）の支援を受けました。WAM助成は、行政が対応しない、NPO法人等の創意工夫ある福祉活動を支援しており、革新的な取組、制度の狭間の取組にはぴったりです。 原則として、立上げ時の事業運営に対して助成され、テーマは子ども・若者、高齢者、障害者など。そして、複数の団体の連携で取り組むことが求められます。人件費にも使える数少ない助成金です。

【寄付金（クラウドファンディング）】

社会貢献的な事業の資金調達として、最近「クラウドファンディング」が注目されています。クラウドファンディングとは、不特定多数の人がインターネット経由で意義ある事業に寄付をする仕組みです。私たちは、ソフトクリームサーバー代（50万円）を、クラウドファンディングで調達しました。 私たちは「Readyfor」という仲介団体にお願いしました。自分たちの活動を広報できるのもメリットです。（右は募集中のチラシ）

【自己資金】

もちろん、自己資金が重要なのは言うまでもありません。自己資金を用意できる団体は強いです。

トレーニングカフェ「スプラウト」初年度予算書（概算）

【支出（区分はWAM助成による）**】**

1　謝金（各種研修指導者等）	300,000円
2　旅費（各種研修指導者、事務局）	100,000円
3　賃金（スタッフ2人）	4,600,000円
4　家賃	1,560,000円
5　光熱水費	500,000円
6　備品購入費（食器棚、 冷蔵庫兼配膳台）	350,000円
7　消耗品費（テーブル、椅子、食器、調理器具、調理台等）	2,100,000円
8　借料損料（駐車場借り上げ補助）	330,000円
9　印刷製本費（パンフレット、チラシ等印刷代）	200,000円
１０　通信運搬費（郵便代など）	20,000円
１１　委託費（カフェ設計、ロゴデザイン、看板製作等）	1,100,000円
１２　保険料	375,000円
（合　　計）	**11,535,000円**

【収入】

1　ＷＡＭ助成金	5,700,000円
2　売上	4,400,000円
3　寄付金	700,000円
4　一般会計繰入	735,000円
(合　　計）	**11,535,000円**

2　カフェを立ち上げる
（３）店の設計をどうするか

お店の設計をどうするかは、初心者には全くわからないので、プロにお願いすることになります。予算の限りがある中で、かなり厳しい場面がでてきますが、もし知り合いの設計士さんがおられれば、多少の無理をきいていただくことができます。

私たちの場合は、スタッフの知り合いの設計士さんに、三重県の木材を使った、ナチュラルな空間づくりをしていただきました。また、テーブルや椅子のレイアウトは、若者の就労支援にも関わっておられる事務機器の会社にお願いしました。

当初の予想以上にお洒落な空間になりましたが、トレーニングを受ける若者は、こういう空間が好きなようです。きれいな場であることは、トレーニング生の受け入れにとっても大切です。

2　カフェを立ち上げる
（4）店の名前をどうするか

店の名前は、店のコンセプトと関わるので、トレーニング生自身も含め、関係者の意見をいろいろ聞き、皆で話し合って決めました。ポイントは次のようなものです。

1　基本コンセプトの「若者が育つ場所」という意味を盛り込みたい。

2　福祉的な印象を与えない、おしゃれな名前にしたい。

偶然、大家さんが種苗屋さんだったことから、種から芽が出て伸びることをイメージした「スプラウト（芽吹き）」が浮上。さまざまな案の中から投票で選ばれました。

名前と同時に、ロゴマークも決めました。こちらもさまざまな案が出ましたが、若者の多様性を表現する虹と、スプラウト（芽）を組み合わせた案を採用することにしました。当初、自団体が製造している「伊勢おやき」と日替わりスープを基本メニューと考えていたので、それを入れたロゴマークにしましたが、新しいメニューの開発のためには、ない方がよかったかもしれません。

2　カフェを立ち上げる
（5）メニューをどうするか

若者のトレーニングが目的とはいえ、カフェですので飲食の提供は必須になります。このため、スタッフ体制は原則2人とし、1人は若者支援、1人は調理を主たる任務としました。もちろん、実際にはどちらのスタッフも、調理も若者支援も両方することになります。

スタッフ自身が慣れない仕事であること、トレーニング生がいれば、当然厨房はもたつくことが予想されることから、メニューはシンプルにすることにしました。市民社会研究所は、ユニバーサル就労の場として「伊勢おやき本舗」を運営しているので、そこで製造する「伊勢おやき」と、具だくさんの日替わりスープを基本メニューとしました。伊勢おやきは6種類程度あるので、スープにお好みのおやきを組み合わせるもので、他店にはないメニューです。スープについては、市内の四日市農芸高校の生徒さんたちから、オリジナルレシピの提供を何種類もいただきました。

開店後数か月が経ち、このメニューだけでは単調で、ボリュームも足りないという意見が出てきました。このため、新しいメニューを考えることになりました。関係者でさんざん議論した末、牛すじカレーに決まりました。原価の安さと美味しさが決定理由です。お米も、地元の農家から安く分けていただくことになりました。大変味がよく、御好評をいただいています。

その後、伊勢うどん、カレーうどん、焼きおにぎり、ソフトクリームなど、続々メニューを増やしてきました。現在は、日替りランチ（デザートはミニソフトクリーム）も検討中です。

大人気の牛すじカレー

美味しいので有名な大内山ソフト

四日市では意外とめずらしい伊勢うどん

こちらも大人気のカレーうどん

2　カフェを立ち上げる
（6）オープニング

オープンを2017年9月5日と決め、開店まで様々な準備をしました。厨房機器を整備し、保健所に「飲食店」の営業許可をとり、食器をそろえ、レジの用意なども行いました。向かいの伊勢おやき本舗、ほくサポ、ユニバーサル就労センターのスタッフがお客役で、応対の模擬演習も行いました（ガラの悪いお客役もいました)。 そして迎えた9月5日。多数のお客様に来ていただきました！

関係スタッフがお客役の事前演習

オープニングちらし

オープニング風景

オープン前日、近くの商工会議所のホールをお借りし、記念講演会を行いました。当時は「ライフネット生命創始者」という肩書だった、三重県出身の出口治明さんをお呼びし、「より良く生きるための『働き方』」というタイトルでお話ししていただきました。会場は満員になりました。

オープン前にカフェの取材があり、記事を掲載していただきました。

新聞 2017年（平成29年）8月11日（金曜日）

社会に踏みだす第一歩に

四日市に就労訓練カフェ

ひきこもりやニートの人たちが働きながら就職を目指すカフェ「スプラウト」が九月五日、四日市市諏訪栄町の商店街にオープンする。三カ月単位で二十五人を受け入れ、接客の仕方やコミュニケーションの取り方を学ぶ。先着順で参加を受け付けている。（曽田晋太郎）

カフェのオープンを前に運営について話し合うNPO法人メンバーら＝四日市市諏訪栄町で

来月5日オープン

運営するのはNPO法人「市民社会研究所」（萱生町）。市内の大学教授やコンビニ企業OBら二十人でつくる。二〇〇四年に組織され、若者の就職相談に乗る「サポートステーション（サポステ）」を開いている。

オープンを前に、運営スタッフによる会議が市内であった。二月までに二期に分けて五十人を受け入れ、三十人を就労につなげる目標を確認した。

松井真理子代表理事は「生活保護受給者やうつ病患者が増えている。働けない人の増加は社会にとっての損失。人は働くことで生き生きできる。就労困難者に自信を付けてもらいたい」と話す。

㊐市民社会研究所＝059（363）35

対象は長期離職者や精神疾患者をはじめ就労困難者らで、年齢は原則十五～三十九歳。女性スタッフ二人の指導を受け、飲み物や軽食の用意や調理、接客を担当する。

営業は火～土曜の午前九時～午後六時で、週に一～五日、一日当たり三～八時間働く。交通費は支給され、時給は二百円。スタッフは「人とのつながりを感じ、社会に踏みだす第一歩にしてほしい」と呼び掛ける。

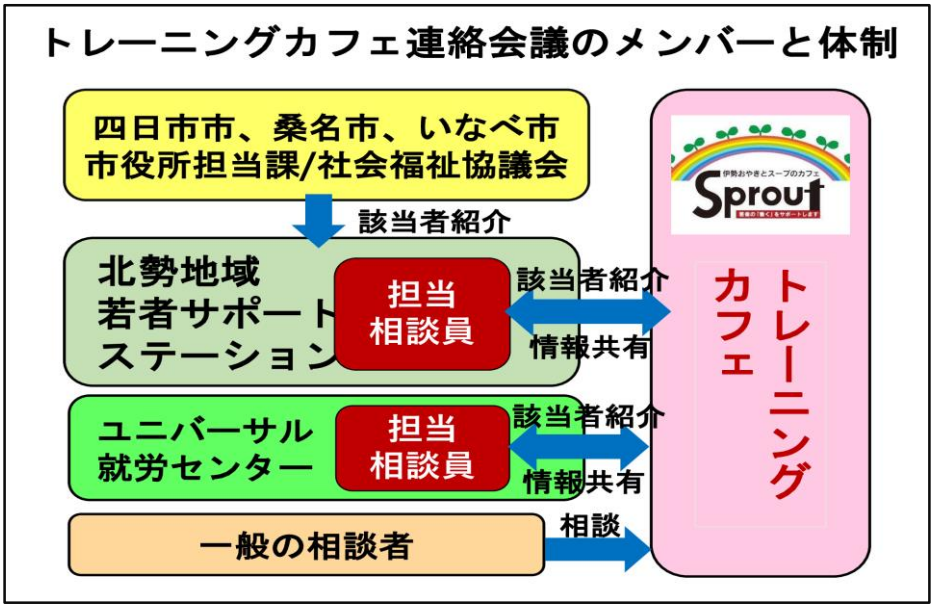
場所は三重興農社ビルの一階の五十平方㍍。カウンター八席、テーブル九席を設ける。店名のスプラウトは英語で発芽を意味する。「就労困難者を社会に芽吹かせたい」との願いが込められている。

3　若者のトレーニング

（1）推進体制

トレーニングカフェ・スプラウトは、四日市市・桑名市・いなべ市の、生活困窮者担当課と社会福祉協議会及び市民社会研究所内のほくサポと、ユニバーサル就労センターをメンバーとする「連絡会議」を母体に実施しました。ほくサポは北勢地域3市5町の若者を対象として実施していること、伊勢おやき本舗が生活困窮者就労訓練事業所であることから、それぞれの課とは事前につながりがあったので、関係づくりは容易でした。

それぞれの部署から、スプラウトにトレーニング生の紹介があり、本人とそれぞれの相談担当者と協議した上で、トレーニング内容、頻度、時間などを決めていきます。カフェでのその日のトレーニングが終了したら、本人が担当相談員に報告して帰るというパターンにしています。トレーニング生ごとに専門的なスキルを持つ相談員がいるので、カフェのトレーニングを安心して実施することができ、また両者の情報共有によってよりよい支援を行うことができます。

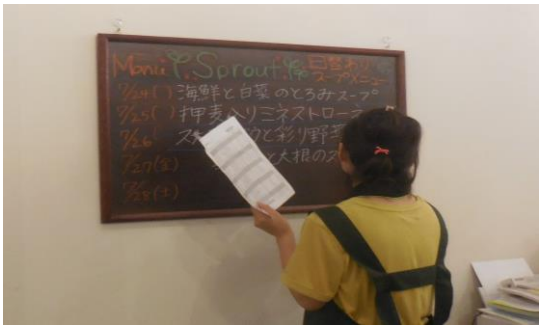


トレーニング生担当スタッフは、日々のトレーニングの終了後、トレーニング生に日報を書いてもらい、それをもとに担当スタッフと一緒に振り返りをします。よくできたところ、もう少し頑張ったほうがいいことなを話し合い、次のトレーニングに生かします。また、サポステなどの担当相談員との面談も行います。スタッフとトレーニング生は普段から和気あいあいとした雰囲気づくりに努めており、ゆるやかにトレーニングを進めています。

障害がある人に限定したトレーニングカフェは三重県内にあるのですが、あらゆる働きにくさを抱える若者を対象とするカフェは、三重県ではスプラウトが第1号です。このため、2018年2月には鈴木知事が先進地視察に来られ、トレーニング生といろいろ話し、激励していただきました。

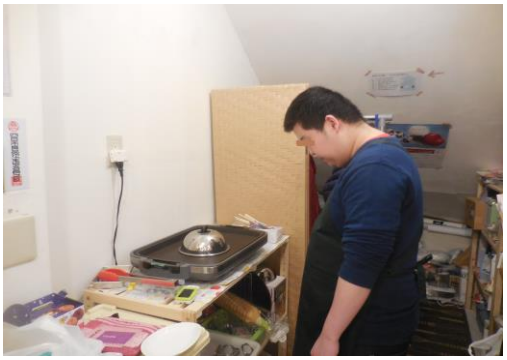
3　若者のトレーニング
（2）トレーニングの内容

朝は9:00から始まります。まずは開店前の床掃除、トイレ掃除、入口のガラス拭きなど。
その後、店頭にのぼりや看板を出し、看板書き（本日のメニューなど)をします。店内の黒板に「本日のおすすめメニュー」も書きます。清潔維持が重要なので、定期的な大掃除も行います。



調理の補助もします。買い物に行くのもトレーニングの一つです。自分一人ではスーパーで買い物をしたことがないという人もいます。

厨房は、トレーニング生が数名入ることを想定して、広めに設計してあります。ここで、野菜を切る、おやきを温めるなどの比較的単純な作業から、コーヒーの淹れ方やおにぎりの作り方など、調理の仕方も学びます。さらに慣れてくると、お客様に注文の品を出したり、レジ打ちもします。



お客様が少ない時間帯では、箸袋や割引券やポスターなどの作成、季節ごとの飾りつけなどさまざまな作業を行います。

トレーニング生の性格やお店の空き具合によっては、向かいの「伊勢おやき本舗」の作業の手伝いをすることもあります。多様な作業があるのも強みです。

3　若者のトレーニング
（3）地域の人々との交流

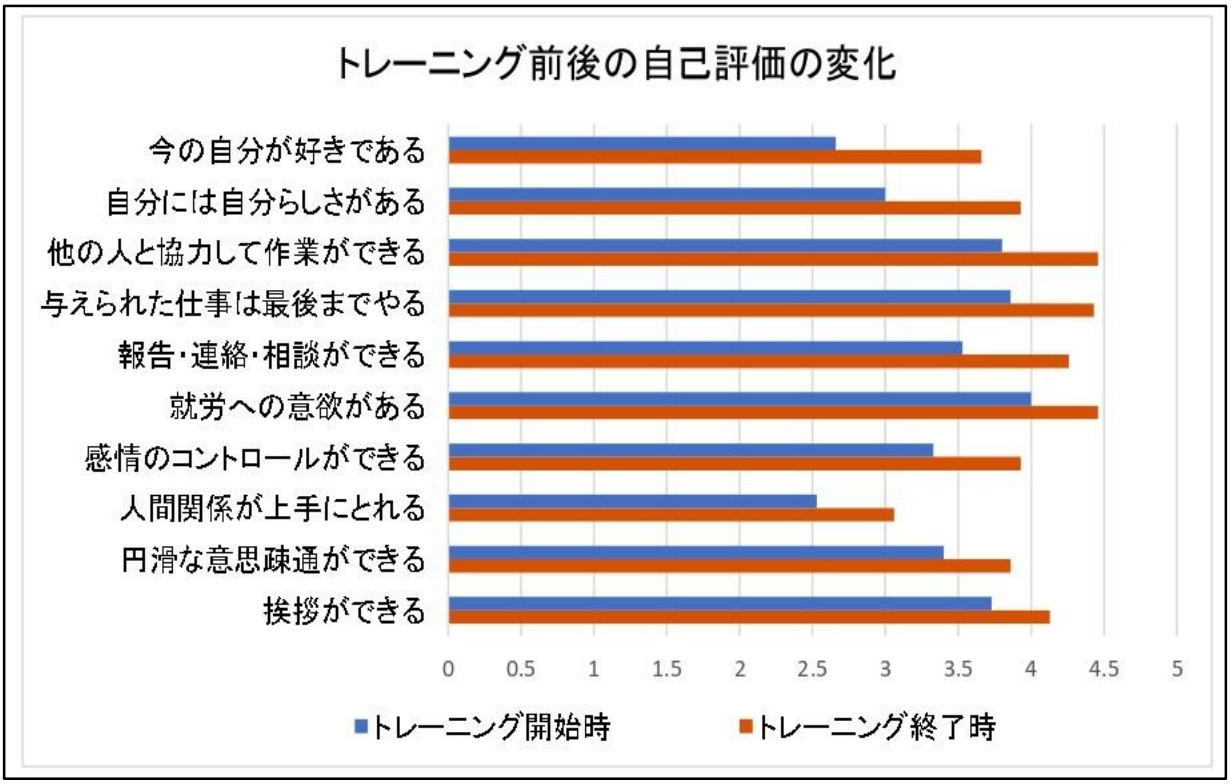
トレーニング生は、スタッフのトレーニングだけでなく、お客様との交流の中で育っていきます。

顔見知りになったお客さんとの何げない会話や、お水や料理を出して「ありがとう」と言われる体験が彼らに力を与えています。

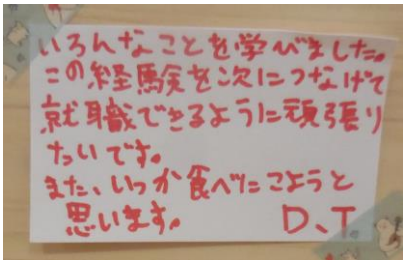
3　若者のトレーニング
（4）トレーニング生の成長

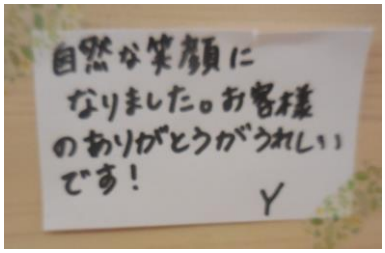
スプラウトでは、トレーニングを始める時と終了した時、トレーニング生に同じ内容のアンケートをとっています。自己肯定感、職業能力、コミュニケーション力の３つの分野の項目となっており、トレーニングによる自己評価の変化を把握するためです。

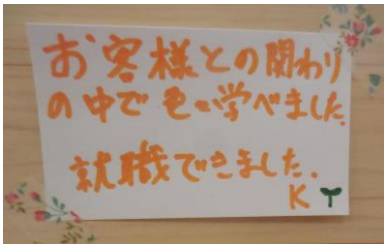
これまでに「卒業」した若者全体の結果は下のグラフのとおりです。あらゆる項目で伸びが目立ちますが、特に「今の自分が好きである」「自分には自分らしさがある」という、自己肯定感の伸びが目立ちます。スプラウトは就労準備を目的としているので、その根底となる自己肯定感の伸びが高いことは評価できると考えています。

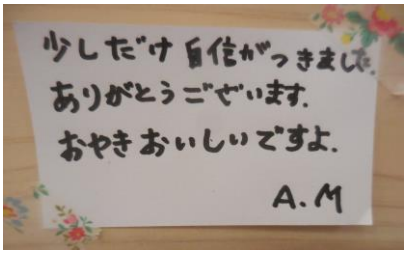


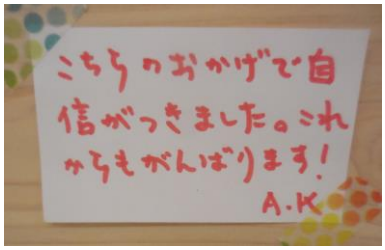
スプラウトのカウンターに貼られた「卒業生」のメッセージカード。カウンターに座ったお客様も見ることができます。このカフェの意義を伝えるコーナーです。

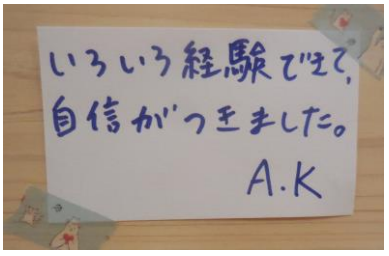


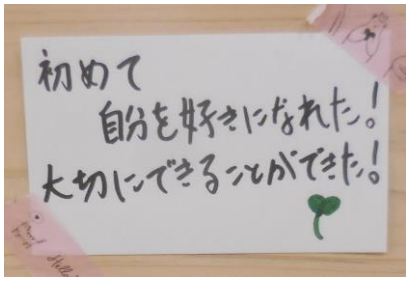


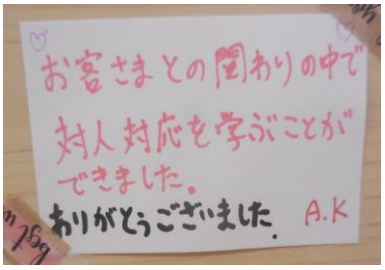


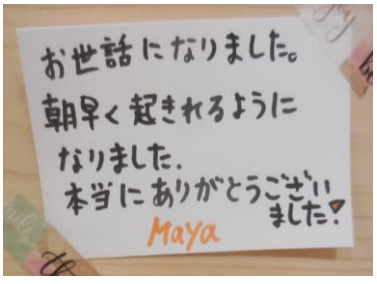


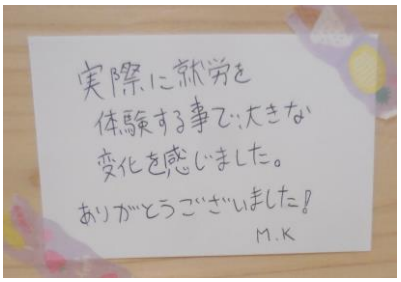


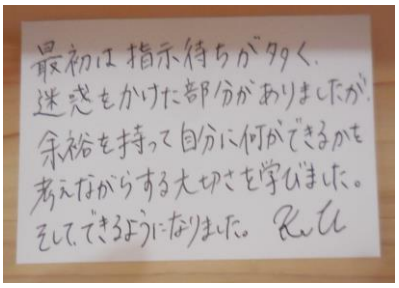


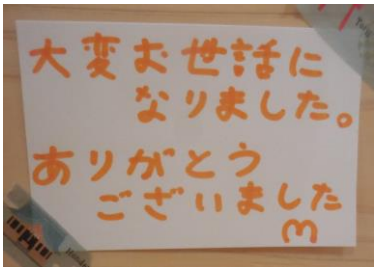












3　若者のトレーニング
（5）トレーニング生の状況と進路

2017年9月の開店時から、2019年3月までの間に受け入れたトレーニング生は47名でした。それぞれの状況は以下の通りです。平均的なトレーニング時間は、1週間2回、各4時間となっていますが、一人ひとりの状況に応じて柔軟に対応しています。居住地は四日市市が中心ですが、それ以外の地域からも来ており、スプラウトでは、距離に応じた交通費の補助を行いました。また、約半数が就職に成功していることは注目されます。

項　目	状　況
性別	男性 21人(44%)　女性 26人(56%)
年代	10代 3人(6%)　20代 33人(70%)　30代 11人(24%)
紹介元	ほくサポ 32人 (68%)　ユニバーサル就労センター 6人(13%) 自己紹介 6人(13%)　市役所 3人(6%)
居住地	四日市市 28人(60%) 桑名市 6人(13%)　鈴鹿市 5人(11%) いなべ市・朝日町 各2人(各4%) 東員町・菰野町・津市・名古屋市　各1人(各2%)
訓練時間	1回の時間　2時間 5人(11%)　3時間 15人(32%) 4時間 24人(51%)　4.5時間 2人(4%) 5時間 1人(2%) 週当たりの回数　1回 13人(28%)　2回 33人(70%) 3回 1人(2%)
卒業後	就職 24人(51%)　就活中 11人(23%) トレーニング継続中 10人(21%)　就学・療養中 各1人(各2%)

開始後まもなくの取材記事

就労支援カフェ順調

オープン2か月目　4人が「卒業」

四日市

引きこもりやニート（若年無業者）の就労を支援しようと四日市市で今秋、トレーニングカフェがオープンした。2か月目に入り、すでに4人が就職を果たしたり、職業訓練校に通ったりと、滑り出しは順調だ。接客や売り上げ計算など業務は多岐にわたり、自分に合う仕事を見つけて働く意欲を高めるのに役立つよう、プログラムに工夫が凝らされている。（田坂誠）

「メニューをお見せしてセットを説明して」。カフェ店内で支援役職員の指示を受け、トレーニング生の20歳代男性が用紙に注文を書いていた。男性は集中しながらもリラックスした様子で作業を進める。カフェに来る以前を「一生懸命仕事をやろうとしたが、うまくいかなかった。ここでの経験は、履歴書を書く時にとてもいい」と話した。

9月上旬、四日市市諏訪栄町にオープンした「トレーニングカフェ　Sprout（スプラウト）」。スプラウトは「芽吹き」の意味で、この店で働くことで社会生活を送る意欲が高まってほしいという願いが込められている。店を運営するNPO法人市民社会研究所の代表理事松井真理子さん（62）は「就労できない若者の事情は様々。ここで働くことに慣れてほしい」と話す。

店では県産食材をいかして作る信州の郷土料理「おやき」と、日替わりスープまたは飲み物のセットを500円（税込み）から用意。接客はもちろん、仕入れなどもトレーニング生の適性に合わせ、任せている。

トレーニング生はオープン当時に15人前後。10月下旬までに、うち3人が就職し、1人は職業訓練校に通い始めた。計4人が「卒業」を果たしたことになる。

同法人は2014年、市内におやき製造販売店「伊勢おやき本舗」を開所。県から就労訓練事業所として認定を受けた。障害者や人づきあいが苦手、うつ傾向など、働きづらい様々な理由を持つ人が働ける職場作りを目指した。スプラウトは製造以外の多様な業種を体験し、人と触れ合う機会を増やすことが目的だ。

県雇用対策課では「障害者認定を受けている人には様々な就労訓練施設があるが、スプラウトは障害者認定を受けていない人でも訓練できることが大きな特徴。働きやすい仕組みで期待している」と話している。

研修会もスタート

今月24日、スプラウトでは第1回の研修会を開催。「『働く』を学ぶ」がテーマで、市内の文具製造販売会社の社長や県中小企業家同友会の事務局長らが、適性に合わせた人事配置を実施していることなどを説明した。研修会は今後、月1回開く予定だ。

真剣な表情で聞き入った約10人の若者の1人で四日市市在住の女性（37）は「スプラウトにオープン直後から来て野菜の仕込みや接客をしている。雰囲気が良くて働きやすく、働く意欲が高まった」と話していた。

同カフェは火～土曜の午前10時～午後5時。近鉄四日市駅から市役所に向かって徒歩5分程度。

落ち着いた内装の「トレーニングカフェ　Sprout（スプラウト）」店内に立つ松井さん（左）

読売 2017.10.28

4　地域とのつながりと発信

（1）「働く」を学ぶ会

スプラウトを「まちなかのカフェ」にしたのは、働きにくさを抱える若者と彼らの働く場をつくることについて、多くの方々の理解を広がることが目的でした。このため、ほぼ毎月1回、「『働く』を学ぶ会」を開催し、情報発信に努めました。また「ユニバーサル就労」を実現するため、さまざまな働きにくさについて学ぶ機会にもしました。

【働きにくさを抱える若者を受け入れている企業の紹介】

スプラウトの卒業生が就職した企業の方に、受け入れに当たっての対応や、職場環境の変化などについてお話ししていただきました。これを聞いて、うちも受け入れたいという企業が出てきました。

若者自身も勉強します。

【働きにくさを抱える若者自身による自己紹介】

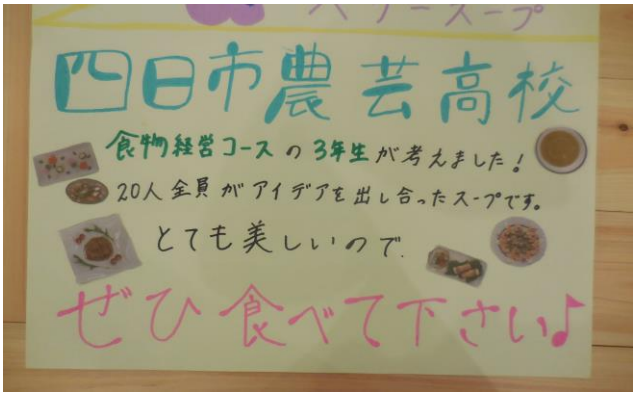
働きにくさを抱える若者自身による「自分の過去・現在・未来」のプレゼンほど、聴くものの心を打つものはありません。これを聞いた四日市市職員から、市職員の人権研修にも招かれました。

【ユニバーサル就労を進めるためのさまざまな学習会】

4　地域とのつながりと発信
（2）様々なつながり

スプラウトはさまざまな地域の人々とのつながりを作ってきました。それらはスプラウトの理解者を広げ、誰もが働ける社会づくりに不可欠なことだと考えています。

【地域とつながるメニューづくり】



四日市農芸高校食物経営コースの生徒さんたちに、オリジナルスープのアイディアをいただきました。
毎週土曜日は「農芸スープの日」としています。

外国籍の人が多い土地柄でもあり、さまざまな国のスープメニューを紹介していただきました。

【商店街とのつながり】

四日市市の中心市街地の商店街の一員でもあるスプラウトは、商店街の方々と連携した活動も行っています。商店街の飾りつけの協力、イベントのスタンプラリーの協力、商店街の方のミーティング会場にもしていただいています。

【ボランティアとのつながり】

スプラウトには、店づくり、食材、資金などにご協力いただいているボランティアさんがおられます。

（左）
時々食材をご寄付いただきます。

（右）
種苗屋さんが、店で売れた種の代金の一部をご寄付いただいています。

写真愛好家の方に、季節ごとに写真をかけ替えていただいています。

【文化を通じたつながり】

スプラウトでは、時々文化イベントを行っています。文化活動を行っている団体とつながる機会となっています。音楽を通じて、様々な人がつながります。

（上）
スプラウト開設1周年を記念し、「男の囲炉裏端」の皆さんが、懐かしの昭和歌謡や童謡を歌っていただき、来場者に喜ばれました。

（下）
四日市映画祭実行委員会の皆さんに、前年度の入賞作品を2回に分けて上映していただきました。

クリスマスパーティ。楽器演奏や歌で盛り上がりました。

4　地域とのつながりと発信

（3）成果の発信

これまでのスプラウトの成果を発信するため、2019年3月21日に発表会を行いました。記念講演のほか、3人のトレーニング体験者が、自分の経験を発表してくれました。中でもKさんの体験談は参加者の胸を打ち、トレーニングカフェの重要性をしっかり伝えてくれました。

スプラウトでトレーニング後、就職した職場で失敗し、傷ついて戻ってきたKさんを、スプラウトのスタッフは何も言わず、頭をポンと叩いて迎えてくれたことを、自作のイラストで表現してくれました。

5　採算性と持続性

（1）社会的企業のジレンマ

社会的企業にはさまざまな定義がありますが、私たちは以下の3つを全て含むものと考えています。

①社会的に排除されている人に就労の場を提供するもの

②政府や企業では十分に提供できないサービスを提供するもの

③サービスに対して対価を伴うもの

スプラウトは、一般企業等ではすぐには就労が難しい若者を対象としているため、一般の飲食店に比べると、迅速で気の利いたサービスはどうしても劣ります。トレーニングが主なのか、ビジネスが主なのかと言われれば、両方大事だけれど、本来目的から、スピードよりもトレーニングが第一にならざるを得ません。メニューも複雑なものや多種類はこなせません。最初から通常のビジネスとは一線を画しているので、お客様もそのことをある程度理解した方々が中心にならざるを得ません。

しかし、社会的企業もビジネスである以上、経済的リスクが伴うことは当然です。2017年の立ち上げ以降、人件費を含む全体経費の約70%をWAM助成で賄ってきましたが、今後はそれがなくなります。持続性を維持するためには、別の助成や、少なくとも1日２万円以上の売上が必要になります。これまでの実績では、1日平均の売上が1万円余りだったので、倍増する必要があります。

売上増を目指して、広報チラシや新聞広告の掲載なども行ってきました。

5　採算性と持続性
（2）これからの方向性

1　生活困窮者自立支援法に基づく「就労人日支援事業所」の受託

トレーニングカフェ事業を継続するうえで、最も近い制度は、生活困窮者自立支援法に基づく「就労準備支援事業」です。この事業は、従来自治体の任意事業だったのですが、生活困窮者の増加に伴い、義務化に向けた方針を国が打ち出しています。このため、トレーニングカフェ連絡会議の構成団体である自治体に、ぜひ取り組んでいただくようお願いをしてきました。

この中で、四日市市が2019年度からの実施を決め、スプラウトが実施事業所として受託することが決定しました。トレーニング生は四日市市在住の方だけではないので、今後他の自治体にも働きかけていきたいと考えています。

2　売上の増加

スプラウトが社会的企業として持続していくためには、市からの委託料だけでは足らず、1日2～3万円の売上が必要です。これは今までの2倍以上になるため、大幅に経営改革をしていかなければなりません。

現在メニューの増加（午前はモーニング、昼は日替わりランチや焼きそばなどの追加）と、午後からのカラオケ喫茶を考えています。カラオケ喫茶はリスクもありますが、13:30～17:00は客数が少ない時間帯であり、ここの改革はきわめて重要です。また、高齢者中心のたまり場とすることで、「ひきこもり高齢者」の地域課題への対応も可能になります。今後、行政や地域と連携しながら、慎重に取り組んでいきたいと思います。

（右）カラオケ喫茶のプレオープン

就労困難な若者のトレーニングカフェ 連絡会議構成団体
四日市市健康福祉部保護課
四日市市社会福祉協議会
桑名市保健福祉部福祉総務課
桑名市社会福祉協議会
いなべ市福祉部社会福祉課
いなべ市社会福祉協議会
NPO法人ユニバーサル就労センター
NPO法人市民社会研究所
(北勢地域若者サポートステーション)

発行　特定非営利活動法人市民社会研究所

（本部）
〒512-8045　四日市市萱生町1200　四日市大学内　　TEL/FAX　059-352-0010

（トレーニングカフェ「Sprout」）
〒510-0086　四日市市諏訪栄町2-9　グリーンモール商店街　TEL　090-5878-1975